

こぐま

2019. 6月4日 (火)

社会福祉法人多摩福祉会
こぐま保育園

わんわんほえるの

わんわんほえるの いぬですね にゃーごとなくのは ネコである
 ブーブーいうのは ぶたでしょう ちゅーとなくのが ねずみなら
 ごろすけほうは ふくろうだ カーカーいうのは からすだな
 くわっくわつとなくのは あひるです
 それならかっこうは なんとなく そいつはみなさん ごぞんじだ
 マザーグース [谷川俊太郎訳]



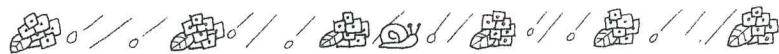
ふれあい うんどうかい たのしかった! ね

お天気にも恵まれ運動会を楽しむことが出来ました。父母の方々、祖父母、お兄ちゃん、お姉ちゃん、地域の方々沢山の参加があり活気と熱気にあふれた一時となりました。永山小学校副校長先生からのあいさつや、上北沢こぐま保育園、砧保育園、学童より職員が見学に来てくれ嬉しく思いました。

子どもたちは日々の生活の中で歩いたり、走ったり、跳んだり登ったりと遊びながら沢山体を動かし、楽しいな～、気持ちいいな～を実感しています。一人で出来たという達成感はもちろんですが、誰かと共に行なったことで得られる達成感はまだ格別です。一緒に体を動かすって楽しいね!一緒にいいな～の共感を目一杯できる運動会をと願っていましたが、運動会の姿はどの時間をきりとっても、笑顔笑顔にあふれ、あたたかなまなざしに包まれた子どもたちは、輝いていました。

お父さんやお母さんの笑顔もとても素敵で、そんな姿を見て子どもたちは幸せを感じたことでしょう。わたしたち職員も幸せを実感できました。やっぱりお父さんやお母さんが元気!が大事ですね。子育ては楽しいことばかりではないですが、ふれあい運動会でちょっとホッとできたのではないのでしょうか。

これからも大人たちが手を取りあって子育てをしていきましょうね。



6月の予定



1
4・6・7
5
11
12・26
14・18・20
21
27



ふれあい運動会
身体測定
歯科検診
お弁当の日
講師によるわらべうた
聴力検査 (どん)
誕生会
避難訓練



学校給食の歴史 ご存知ですか?

学校生活を振り返ると誰でも給食の思い出があるでしょう。大好きだった人嫌いなメニューを無理に食べさせられて苦い思い出の人、様々でしょうね。最近全国学校給食を考える会がシンポジウムを開催しました。その中で京都大学藤原辰史准教授が、歴史と貧困の角度から講演されました。歴史を考える上で大切な三つの視点について、内容の一部を紹介します。

- ① 国内での給食の発祥は1889年山形県鶴牧市でした。大事な労働力として学校に来れなかったり、弁当を持って来れなかった子どもたちを、学校に通いやすくすることで、貧困から抜け出させるのが狙いでした。
- ② 災害の復興対策としての役割です。戦争や地震、冷害や水害などで家族や家を失った子どもが学校に通う為に給食が役立ちました。避難先の学校にキッチンがあれば炊き出しも可能でした。1950年代の水害と冷害の経験を踏まえた54年の学校給食法制定で、一気に全国に広がりました。
- ③ GHQの意図。(GHQってご存知ですか?) 第1次世界大戦時、76万人もの餓死者が出たドイツの例をあげGHQは、食糧暴動や革命がおこることを恐れていました。子どもが飢えていることは親にとって耐え難いことです。どんなことをしてでも、食べさせたいと思ったことでしょう。

日本人の味覚を変えていくのもGHQの目的でした。70年代から80年代にかけては“合理化”の社会風潮をうけて“センター方式”が一気に広がりました。給食は20世紀の時代背景を色濃く反映しており、戦後の一つの運動史でもあります。その原点をもう一度見直すべきだと結んでいました。

保育の無償化に伴う給食費の実費徴収はこういう歴史からも考えたいと思いました。

